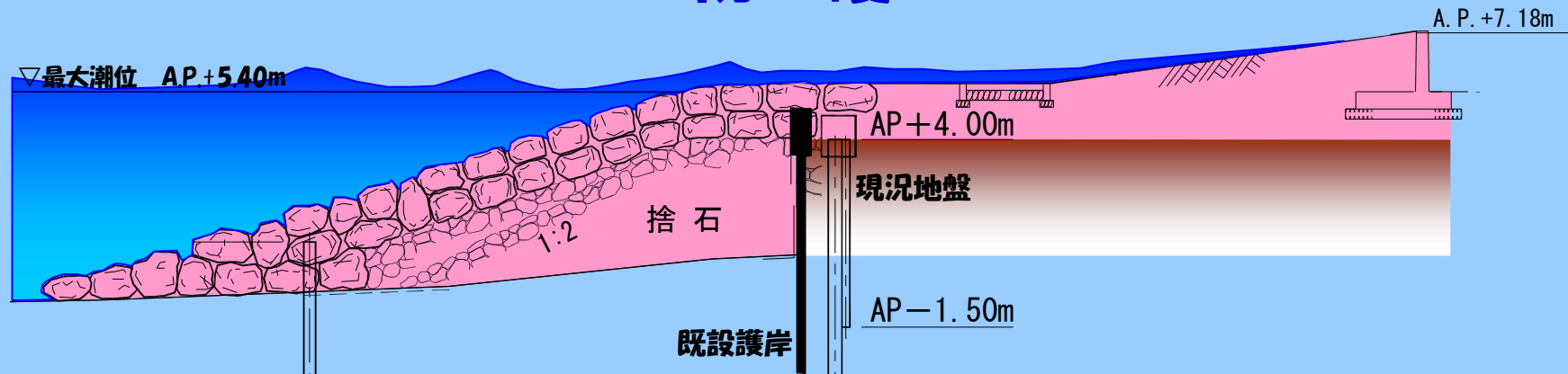


2丁目200m区間の施工着手から1年後の 検証・評価

< 防 護 >



平成28年11月

1. 塩浜2丁目200m区間の工事の実施状況

老朽化の著しい900m区間の護岸改修を先行して進め、H25年度に完了した。

H27年度より残された200m区間（実延長は183.4m）の整備に着手した。

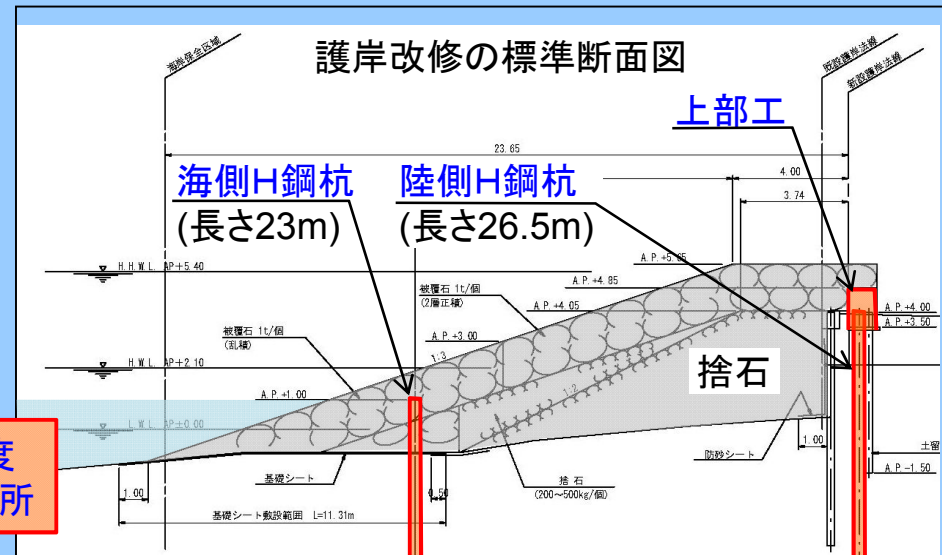
H27年度

- ・捨石工 148m
- ・H鋼杭（海側・陸側） 35m

H28年度

- ・H鋼杭（海側） 130.5m
8月施工完了
- ・H鋼杭（陸側） 131.0m 施工中
- ・上部工 131.8m 施工中

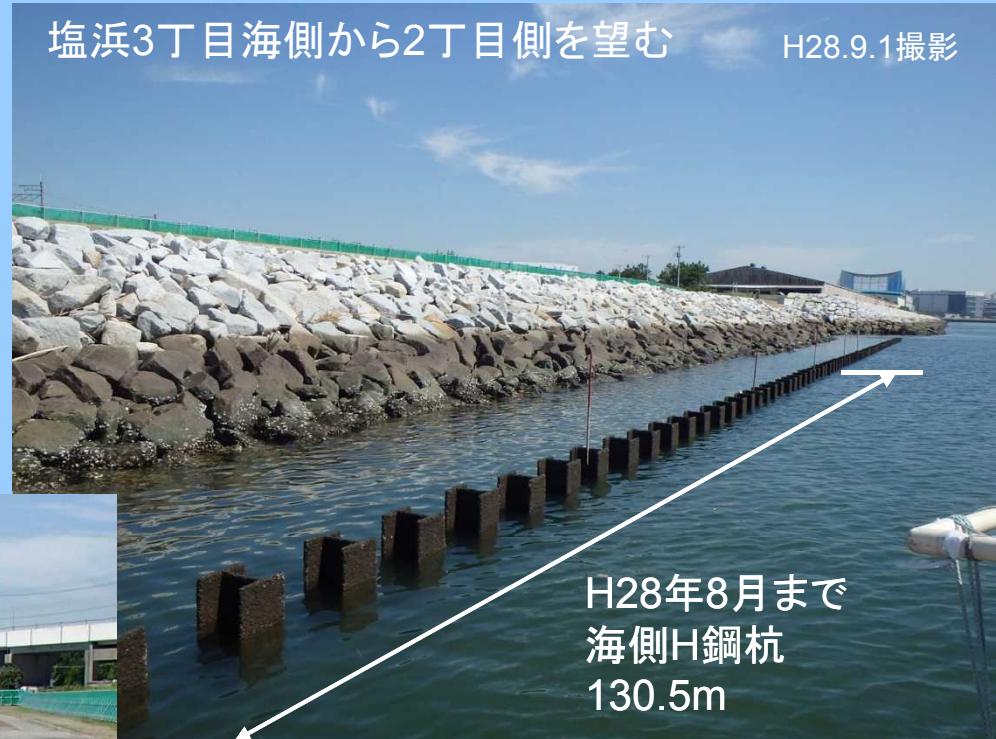
今年度
施工箇所



現地施工状況写真(今年度海域工事完了時)

塩浜3丁目海側から2丁目側を望む

H28.9.1撮影



H28年8月まで
海側H鋼杭
130.5m

塩浜2丁目側から3丁目側を望む



H28年8月まで
海側H鋼杭
130.5m

H28.9.1撮影

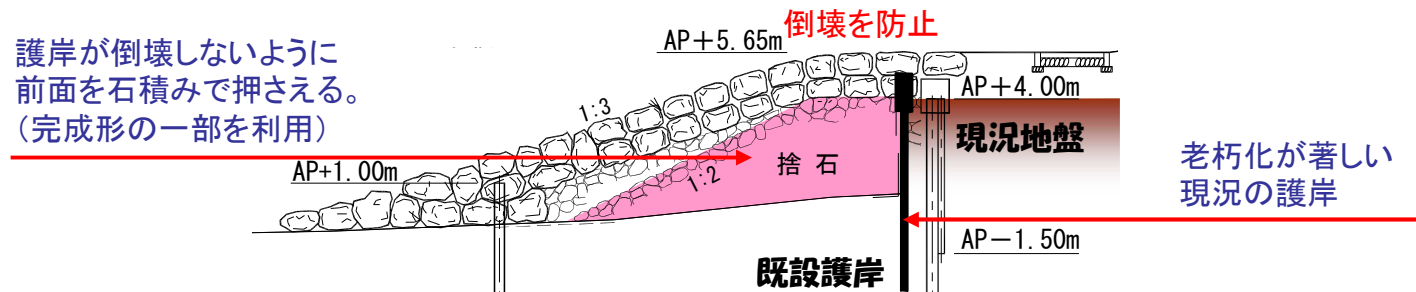
海側H鋼杭130.5m(H28年8月施工完了)
陸側H鋼杭131.0m(施工中)
上部工131.8m(施工中)

2. 地域の“防護”に関する検証・評価

(1) “防護”に対する4つの指標

① “緊急対応”への指標 : 既設護岸の補強に必要な石積が確保されたか。

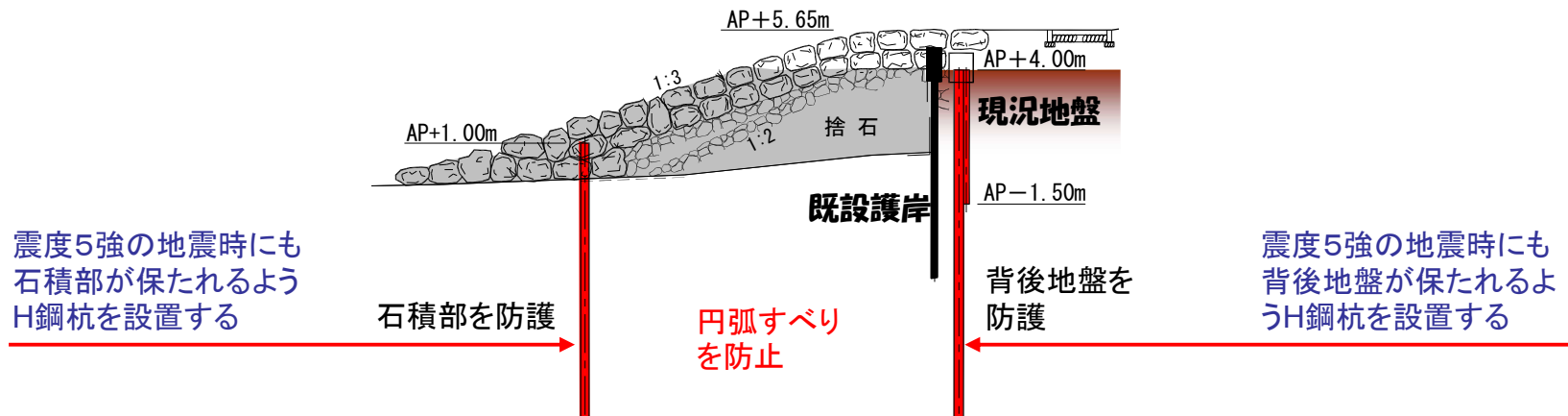
◇老朽化した現在の護岸の倒壊防止を図る。



② “耐震”への指標 : H鋼杭(海側、陸側)が打設されたか。

◇震度5強の地震時にも石積部が保たれるようH鋼杭を設置する。

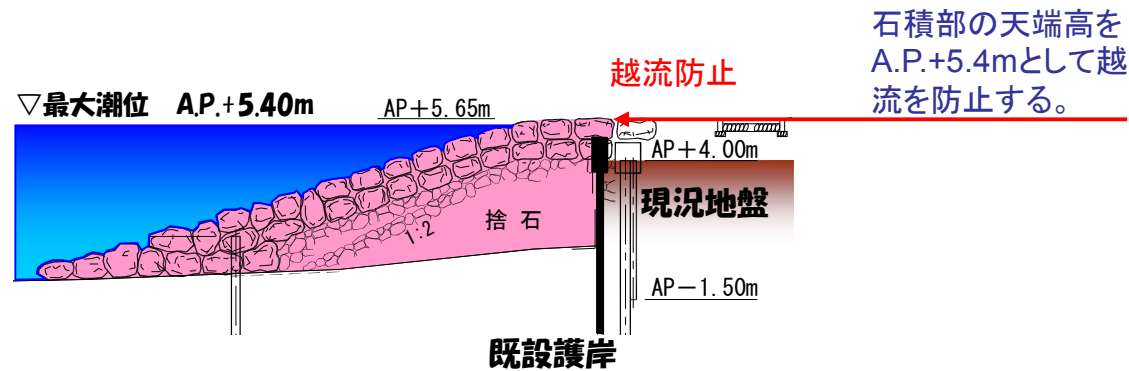
◇ “ ” 背後地盤が “ ” 。



③ 最大潮位での”越流防止”への指標

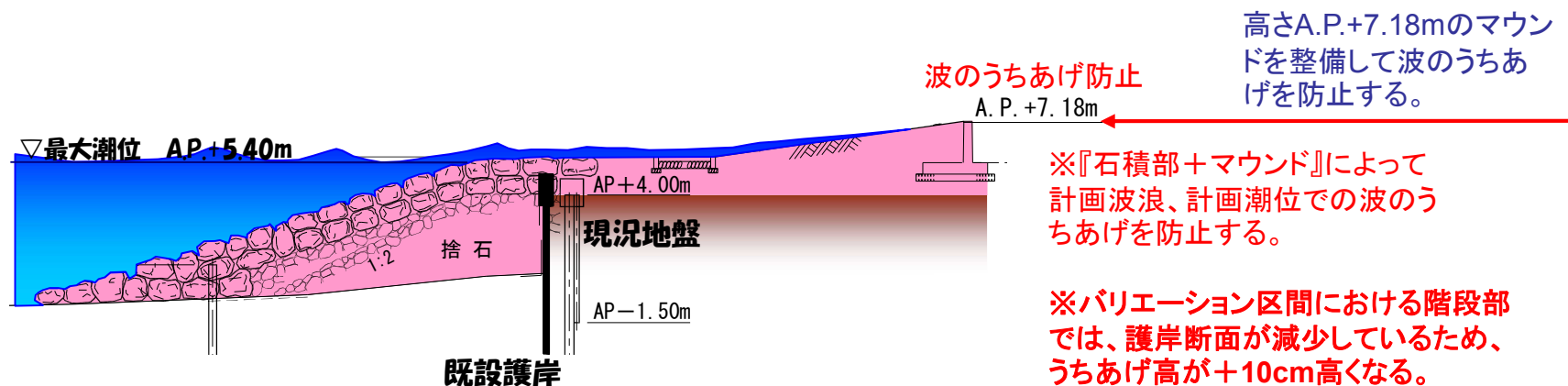
: 石積堤の高さがA.P.+5.4mに達しているか。

◇A.P.+5.4mに達する最大潮位でも越流しない高さの護岸とする。



④ ”高潮災害防止”への指標 : 背後地のマウンド高さがA.P.+7.18mに達しているか。

◇高潮時にも波が背後地に及ばないようA.P.+7.18mの高さのマウンドを護岸背後に整備する。



(2) 検証基準

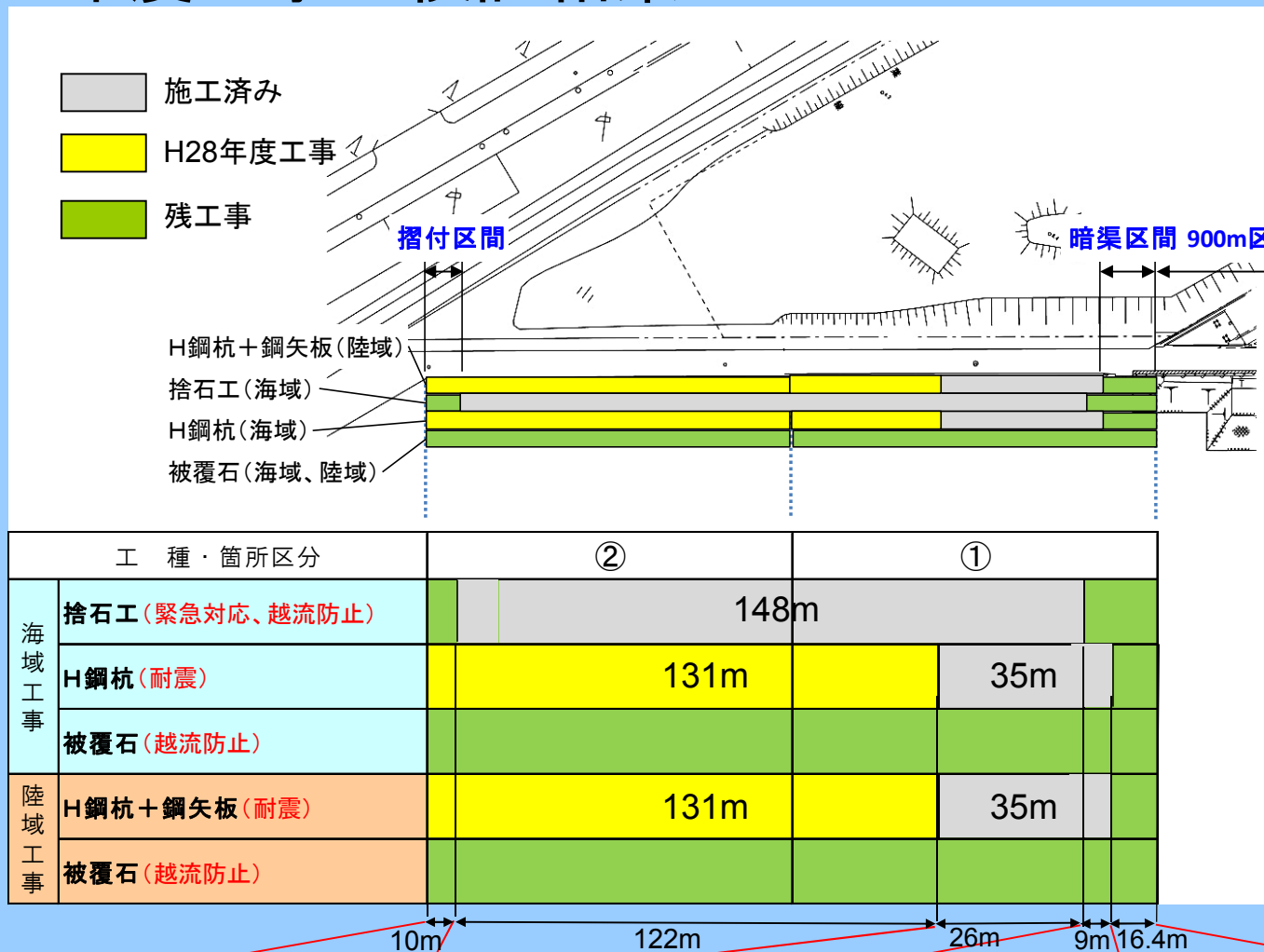
目標達成基準

高潮等の災害から背後地の安全を早期に確保すること。

検証項目	目標達成時期	検証場所	基準とする値
防護の確保状況	平成29年度 ※完成目標年度	塩浜2丁目 (200m区間)	地域の防護に対する4つ指標がそれぞれ施工延長200mにわたって、 ①緊急対応への指標 100% ②耐震の指標 100% ③越流防止への指標 100% ④高潮災害防止への指標※ — を確保すること。

※:④のA.P.+7.18mまでの背後地の高さの確保は、背後地のまちづくりと調整中である。

(3) H28年度工事の検証結果



工種・箇所区分		②		①	
海域工事	捨石工 (緊急対応、越流防止)	148m			
	H鋼杭 (耐震)	131m		35m	
	被覆石 (越流防止)				
陸域工事	H鋼杭+鋼矢板 (耐震)	131m		35m	
	被覆石 (越流防止)				

	実績	状況	実績	状況	実績	状況	実績	状況	実績	状況
①緊急対応(捨石工)	無し	0.0%	有り	100.0%	有り	100.0%	無し	0.0%	有り	0.0%
②耐震(H鋼杭:海陸)	有り	100.0%	有り	100.0%	有り	100.0%	有り	100.0%	無し	0.0%
③越流防止(+5.4m)	無し	0.0%	4.0m	74.1%	4.0m	74.1%	無し	0.0%	無し	0.0%
④高潮災害防止(+7.18m)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

※上表の①～④の検証については、(区間ごとの進捗率) × (区間延長 / 全体延長) の合計で算出する。

(4) H28年度工事の検証結果(指標ごと)

① "緊急対応"への指標 : 既設護岸の補強に必要な石積が確保されたか。

◇老朽化した現在の護岸の倒壊防止を図る。

⇒ $[(0\% \times 10\text{m}) + (100\% \times 122\text{m}) + (100\% \times 26\text{m}) + (0\% \times 9\text{m}) + (0\% \times 16.4\text{m})] \div 183.4\text{m}$

⇒ **81/100**

② "耐震"への指標 : H鋼杭(海側、陸側)が打設されたか。

◇震度5強の地震時にも石積部が保たれるようH鋼杭を設置する。

◇ " " 背後地盤が " " 。

⇒ $[(100\% \times 10\text{m}) + (100\% \times 122\text{m}) + (100\% \times 26\text{m}) + (100\% \times 9\text{m}) + (0\% \times 16.4\text{m})] \div 183.4\text{m}$

⇒ **91/100(予定)**

③ 最大潮位での"越流防止"への指標 : 石積堤の高さがA.P.+5.4mに達しているか。

◇A.P.+5.4mに達する最大潮位でも越流しない高さの護岸とする。

⇒ $[(0\% \times 10\text{m}) + (74.1\% \times 122\text{m}) + (74.1\% \times 26\text{m}) + (0\% \times 9\text{m}) + (0\% \times 16.4\text{m})] \div 183.4\text{m}$

※(石積みで確保されている高さ:A.P.+4.0m) ÷ (越流防止高さ:A.P.+5.4m) = 74.1%

⇒ **60/100**



④ "高潮災害防止"への指標 : 背後地のマウンド高さがA.P.+7.18mに達しているか。

◇高潮時にも波が背後地に及ばないようA.P.+7.18mの高さの

マウンドを護岸背後に整備する。

⇒ **背後地と調整中**

(5) H28年度工事による防護の評価

目標達成 基準	高潮等の災害から背後地の安全を早期に確保すること。
	
検証結果	<ul style="list-style-type: none"> ① "緊急対応"への指標 ⇒ 81/100 ② "耐震"への指標 ⇒ 91/100予定 ③ 最大潮位での"越流防止"への指標 ⇒ 60/100 ④ "高潮災害防止"への指標 ⇒ 背後地のまちづくりと調整
	
防護の 評価	<ul style="list-style-type: none"> ・①"緊急対応"は塩浜3丁目側端部の摺り付け部、行徳湿地につながる暗渠部を除き、完了した。 ・②"耐震"については暗渠部を除き完了する見込みである。 ・③"越流防止"は6割の達成状況であり、平成29年度末まで被覆石を施工し、達成する見込みである。 ・④"高潮災害防止"への指標については、後背地のまちづくり計画との調整を進め、高潮災害に対する安全確保を図る。 ・以上より、引き続き暗渠部および被覆石の工事を進め、未施工区間を解消し①～③の指標への対応を進め、併せて背後地のまちづくり計画との調整を行い④高潮災害防止への対応を進めて、地域の防護を早期に図る。